



日暮里きらきら保育園

重要事項説明書

1. 保育理念・方針・目標

●保育理念

「地域で子どもを育てあい、安心・安全なコミュニティの創造ができる保育」

「人が、心が、すべて」という基本理念を原点に、心身ともに健やかな子どもが地域で安心・安全に成長し、家庭に明るさをもたらすような施設の運営を心がけていきます。

保育にあたっては、子どもの人権や主体性を尊重し、子どもが最も幸せな成長を遂げることができるよう、職員一同、保護者、地域の方々と力を合わせより良い保育を目指します。

●保育方針

・子どもの自立を促す保育

自主性を大切に見守りながら、子どもの考える力を養えるよう促していきます。

・遊びを通して学びを育てる保育

様々なあそびを体験する中で、いろいろな物・事に対して興味を深めていきます。

・創造豊かな心を育む保育

制作や音楽活動を通して、家庭では出来ない体験をし、創造豊かな心を育みます。

・コミュニケーションを大切にされた保育

友達や保育者との関わりの中から、優しさや思いやりの心を育てていきます。

・地域に開かれた保育

行事等を通して地域に人々との交流を深めていきます。

・日本の伝統文化を伝える保育

日々の生活や行事等を通して、文化や季節を伝承していきます。

●保育目標

- ・遊びを楽しめる子に
- ・感情表現が豊かな子に
- ・自ら考え、行動できる子に

保育事業経営理念

1.事業の目的

社会的貢献として、待機児童の解消と共に、適正な料金での保育に対し、より高い質を提供し、企業としての利益を得る

2.事業の方向性

「総合生活文化企業」として、働く育児世代のライフスタイルに応じた的確なサービスを提供し、ワークライフバランスを促進する

3.事業部の価値観

「保育」の意義と可能性を柔軟に理解し、子どもと保護者に対して、常によりよいサービスを追求し続ける

4.顧客に対する姿勢

子どもの変化に敏感に反応できる観察力を持ち、保護者の声には真剣に耳を傾ける

5.社員に対する姿勢

事業の目的と社会的価値を理解し、誠実な姿勢でより高い観点での企画・サービスを求める

6.地域に対する姿勢

日々の生活の中で、子どもたちの成長を地域社会と共に暖かく見守れる環境にする

7.経営理念

少子化問題が進み、核家族化・世帯の小規模化が如実に現れている。そうした中で、共働きの家族が増加し、保育の需要は高まっている。こうした社会背景の中、育児と就労の両立に対する安心感を、ゆるぎなく提供することが、総合生活文化企業としての責務であると考えている。

8.社訓

一、お客様に喜びを

一、社員に生活向上を

一、会社に繁栄を

保育所施設の基本理念

当社が掲げる、「人が、心が、すべて」という基本理念を原点に、心身ともに健やかな子どもが地域で安心・安全に成長し、家庭に明るさをもたらすような施設の運営を心がけていきます。

2. 会社概要

商号	スターツケアサービス株式会社
設立	2003年7月30日
資本金	1億円
代表取締役	吉井 はるか
本社	東京都江東区木場5-8-40 東京パークサイドビル12F
事業内容	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）、サービス付き高齢者向け住宅、小規模多機能型居宅介護、通所介護（デイサービス）、居宅介護支援、訪問介護、介護タクシー、障がい者福祉サービス、シニア賃貸住宅、福祉用具貸与・販売、認可保育園、企業主導型保育園、調剤薬局 (2026年1月現在)

3. 保育園概要

種別	保育所						
名称	日暮里きらきら保育園						
住所	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-30-4 ウィステリア XI						
電話	03-5615-5666						
FAX	03-3801-0336						
Mail	kirakira_nippori@starts.co.jp						
施設長氏名	大賀 知哉						
開設年月日	2017年10月1日						
対象年齢	0歳児～就学前児童						
入園定員	50名						
	年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
	人数	6名	8名	9名	9名	9名	9名
職員数	施設長	1名	園務をつかさどり、職員の監督をする				
	主任保育士	1名	園長を助け、園長に事故のあるときはその職務を代理する				
	副主任保育士	1名	主任を補佐し、その職務を代理する				
	常勤保育士	9名	園児の保育に直接従事する（園児数により変動する）				
	常勤看護師	1名	園児の健康管理をする				
	非常勤職員 (有資格者含む)	11名	常勤保育士の補助をする（園児数により変動する）				
	事務職員	1名	園の経理など事務全般を行う				
	栄養士	(委託：株式会社 LEOC)					
	調理員	(委託：株式会社 LEOC)					
自己評価の概要	職員による保育内容等の自己評価を年4回実施し、保育の質の向上に努めています。						
嘱託医	蓮沼医院 所在地：東京都荒川区東日暮里6-51-8 電話番号：03-3891-1170						

4. 施設概要

構造	鉄骨造9階建て
延床面積	476.87 m ²
園庭	159.93 m ²
厨房設備	オール電化厨房
セキュリティー	電気錠ドア

5. 開園日・開園時間・休園日（保育標準時間）

開園日	月曜日～金曜日	土曜日
保育標準時間	7時15分～18時15分	7時15分～18時15分
延長保育	18時15分～19時15分	18時15分～19時15分
休園日	日曜・祝祭日 年末年始（12月29日～1月3日）	

開園日・開園時間・休園日（保育短時間認定）

開園日	月曜日～金曜日	土曜日
開園時間	9時00分～17時00分	9時00分～17時00分
延長保育	7時15分～9時00分 17時00分～19時15分	7時15分～9時00分 17時00分～18時15分
休園日	日曜・祝祭日 年末年始（12月29日～1月3日）	

6. 利用の開始及び終了に関する事項

【2号・3号認定子ども（保育認定）】

利用者の決定	区が行う利用調整による
退園理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2号、3号認定子どもに該当しなくなったとき（卒園含む） ・ 保護者から退園の申し出があったとき ・ 利用継続が不可能であると区が認めたとき ・ その他、利用継続の重大な支障または困難が生じたとき

7. 利用料等

利用者負担（月額保育料）	保育料・給食費無償		
延長保育料	保育標準時間	1月当たり（月極）	保育料の10パーセント
		1回当たり（30分以内）	400円
		30分超	800円
	保育短時間	7時15分～9時00分 17時00分～19時15分 （30分以内）	400円
		以降30分超えるごとに	400円

※月額料金は前払いとなります。月中に集金袋をお渡しいたしますので、毎月27日までに翌月分をお支払いください。

※スポット料金は翌日払いとなります。用紙に保護者名・園児名を記入の上、利用料金と共に担任または事務室までお持ちください。おつりのないようご協力お願いいたします。

※カラー帽子は保育園からの貸与となります。

紛失してしまった場合は、自己負担購入（1つ¥1,080）となりますのでご注意ください。

※帽子価格は金額の変更がある場合がございます。

8. 保育中の怪我や事故について

・保育中にケガや容体の変化等があった場合は、あらかじめ保護者が指定した緊急連絡先へ連絡をします。

・保育中にケガをし、医師の専門的治療を必要と判断した場合は、原則として保護者の方に連絡をした上で、保育園で医療機関を受診します。受診先により保護者の方に直接説明を聞いていただく必要があります。その際は来院のご協力をお願い致します。

・保護者と連絡が取れない場合には、身体の安全を優先させ、当保育園が責任を持って対応致します。

・保険証のマイナ保険証移行に伴い、令和7年度より保育園での保健証写しのお預かり、または受診後のマイナカードのお預かり等はいりません。保育園にて医療機関を受診した際には、ご連絡を入れさせていただきます。保護者の方のご来院をお願いいたします。

やむを得ず受診時間内のご来院が難しい場合には、後日ご家庭にて医療機関（薬局含む）への訪問・精算を行い、保育園へ清算金額のご返金を頂きますよう、よろしくをお願いいたします。

スターツケアサービス株式会社では下記の保険に加入をしております。

保険の種類	独立行政法人 日本スポーツ振興センター	公益社団法人全国私立保育園連盟
保険の内容	災害共済給付	園賠償責任保険
保険金額	医療費・・・保険診療の医療費総額の4割 障害見舞金・・・第1級（4,000万円）～ 第14級（88万円） その他	対人・・・1名2億円/1事故10億円まで 対物・・・1事故200万円まで

9. 不適切保育・虐待の防止について

(1) 職員の不適切保育防止のための措置

利用する児童に対する虐待を防止するため、保育士に対する研修を行います。

(2) 家庭における虐待防止のための対応

虐待の前兆を見逃さぬよう、利用児童や家庭の様子に注意を払うとともに必要に応じて関係機関への通報などを行います。また保育士と保護者との交流を通じ、育児への不安や悩みに対し支援を行い育児の負担感を軽減します。

10. 個人情報の取り扱いについて

当園で知り得たお子様、保護者様、及びそのご家族等に関する個人情報は、個人情報保護法に

基づいて、適正に取り扱いいたします。

1 1. その他留意事項

当該重要事項説明書の記載事項に変更が生じる場合には、事前に説明いたします。

1 2. 保育内容に関する相談・苦情

利用時間 9：00～17：00 担当者が不在の場合は、当園職員までお申し出ください。

受付担当者 : 日暮里きらきら保育園 主任

問題解決責任者 : 日暮里きらきら保育園 園長

東京都荒川区西日暮里2-30-4 ウィステリア XI

TEL 03-5615-5666

FAX 03-3801-0336

運営に関する相談・苦情受付窓口

スターツケアサービス株式会社

東京都江東区木場5-8-40 12階

TEL 03-6880-3270

FAX 03-6880-3261

第三者委員（保育園の運営に関して客観的なご意見をいただきます）

高原 香世（保育士・園長経験者）

東京都葛飾区堀切3-6-5

TEL 03-5698-9233



日暮里きらきら保育園

園の自己評価


スタートケアサービス株式会社

日暮里きらきら保育園の自己評価

【評価の基準】

- A 大変良くできている
- B できている
- C 概ねできているが、今後に向けて改善する余地がある
- D できていない、要改善

記入日： 令和 8 年 1 月 20 日 氏名 平井裕子

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
に保 つ 目 て 標	① 保育方針・保育目標は職員間で共有理解を図っている。		○		
	② 保育方針・保育目標が活かされるような保育内容を考えている。		○		
	③ 目標は前年度の反省を活かしている。		○		

○評価の根拠 ●改善策

子ども一人ひとりに寄り添った保育が提供できるように常に考えている。子どもたちの育ちをどんな小さなことでも気づいたら職員間で話せる環境がある。職員皆で発達を理解することで、どのように関わることがよいかなどを共有しながら保育をするので安定した保育が提供できている。異年齢保育、交流を日頃から行っていることで子どもたちの心の成長につながっている。理解できない部分に関しては個別の対応や全体として話をするように今後もしていく必要がある。子どもたちの心の成長につながるような保育を心がけたい。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
保 育 内 容 に つ い て	① 計画指導は乳幼児の実態に配慮して作成している。	○			
	② 保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。	○			
	③ 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができ、見通しを持ちながら進めているのか。	○			
	④ 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	○			
	⑤ 素材・用具を適切に活用しているか。	○			
	⑥ 園内研修は評価結果を基に保育の改善に努めているか。	○			

○評価の根拠 ●改善策

子どもたちが興味、関心を持ったことを職員が気づきどのようにかかわるべきか、今どのような環境が必要かを考え実行している。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
つ 食 育 に 関 心 を 持 つ て い る	① 食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせ、食育計画を立て、実践している。	○			
	② 旬の食材や行事食を取り入れ、様々な食材に触れ、味わえるようにしている。	○			
	③ 評価結果を元に食育の改善に努めている。	○			

○評価の根拠 ●改善策

給食担当、栄養士の方と給食会議や日頃の子どもたちの喫食状況などを相談しながら食に興味や関心を持ってもらえるような食育の実施に努めている。また、年齢に考慮した食育にも取り組んでいる。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
行 事 に 関 心 を 持 つ て い る	① 1日の流れ（デイリープログラム等）は現行で良いか。	○			
	② 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしている。	○			
	③ 行事のねらいや実施回数などの内容を検討し、改善に努めている。	○			
	④ 計画・実施・評価・改善の体制をとっている。		○		
	⑤ 保護者の願いや意見を取り入れている。		○		

○評価の根拠 ●改善策

行事に関してはその都度職員と話し合いながら次年度につなげる形をとり、改善すべきところは改善するようにしている。また、計画をたてた段階でしっかりと確認をすることと評価、振り返りが大切だと感じる。保護者の意見は、できる限り取り入れる努力をしているがすべてではない。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
組織・運営	① 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜むことなく施設の運営委に携わっているか。		○		
	② 職員間の連携がとれ、報告・連絡・相談等ができ、協働できる体制になっている。			○	
	③ 係や仕事の分担・割り当ては適切か。	○			
	④ 職員の意見を聞いたり、話し合う場を定期的に持っているか。		○		
	⑤ 打ち合わせ回数・時間・内容は適切か。		○		
	⑥ 年齢別目標は、保育目標や乳幼児の実施に即して設定しているか。	○			
	⑦ 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。	○			
	⑧ 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	○			
	⑨ 評価・資料（記録）を集積しているか。	○			
○評価の根拠 ●改善策					
<p>乳児リーダーがないことで幼児との連携が取れにくいことが多々あり、不満へとつながってしまった。中には経験年数だけを見ると乳児の職員から頼られる部分があり、本人が乳児リーダーでもないのになぜ私がといったことで意思の疎通の難しさと、職責とのむずかしさを感じる。全体の雰囲気にも繋がりがとりずらくなってしまった。これを改善するために、昼会議の実施をはじめ全体への報告、連絡、相談がとどこを羅ないよう改善した。</p>					
項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
保健・安全指導	① 危機管理意識を持ち、緊急時の対応できる体制・マニュアルの作成、保健対策を講じているか。	○			
	② 避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施しているか。	○			
	③ 保育士・調理員が連携し、アレルギー児や提供方法等に対する環境・体制にあるか。	○			
	④ 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	○			
	⑤ 乳幼児の安全のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	○			
○評価の根拠 ●改善策					
<p>危機管理意識をもって保健指導や安全指導を専門の職員を交えて指導をしたり訓練の実施を行っている。訓練していることでいざという時に対応できている。訓練を行う中で新たな課題が見えた時にはその都度改善していいっている。また、地域の保育園との連携もできている。</p>					
項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
園内外研修	① 研修は保育目標の具体化につながるものであるか。		○		
	② 園内研修の計画・運営は適切か。		○		
	③ 研修の成果を日常保育に活かし、乳幼児の育ちに反映できているか。	○			
	④ 各研修会・講習会等への参加体制ができているか。			○	
	⑤ 各種研修会・講習会等での内容を園内に報告・還元しているか。	○			
○評価の根拠 ●改善策					
<p>研修全体に職員の人数などで参加が難しいのが現状である。荒川区の研修は特に学びとなるものが多く、すぐに保育に活かせるものや具体的な研修報告は、反省会などの時間で職員全体に報告している。園内研修も保育に活かせるものを今後も取り入れていく必要があると感じている。</p>					
項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
園内情報	① 乳幼児や保護者に関する個人情報を通正に取り扱っているか。	○			
	② 公文書收受・発送・処理を適切に行っているか。	○			
	③ 各帳簿は適切な方法で作成・処理しているか。	○			
○評価の根拠 ●改善策					
<p>これは、できないと問題がある。</p>					

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
施設 備設	① 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○			
	② 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管されているか。			○	
	③ 掲示板・掲示場所を適切かつ効果的に活用しているか。	○			
○評価の根拠 ●改善策					
怪我、事故につながるため安全点検は大切であると感じている。園外の遊具は、置く場所もなく現在避難車の中に収納することが精一杯であり、使い勝手を考えると改善の必要があると感じている。					
項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
園外 交流・ 情報	① 積極的に地域の文化や生活に触れ、地域との関係が適切に保たれているか。		○		
	② 乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。	○			
	③ 事業所職員の保育体験及び保育施設見学を受け入れる時は、その目的や意義を理解・確認しているか。	○			
	④ 保育園から各種便りを定期的に発信しているか。	○			
	⑤ 保護者などから問い合わせがあった場合に、自園または地域の子育て支援に関する情報を提供しているか。	○			
	⑥ 医療機関・児童相談所等の専門機関及び提携園について保護者にとって必要な情報を提供しているか。	○			
○評価の根拠 ●改善策					
地域交流に関してはできる限りではあるが交流をしている。地域的なこともあるので交流する施設がこれだけでなくはならないという考えではなく、柔軟な考えで対応している。					
項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
評外 価部	① 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。	○			
	② 苦情解決の体制づくりはできているか。	○			
○評価の根拠 ●改善策					
苦情等などがあった場合には、フォローチャートなどを参考に誠意を持った対応ができるように心がけ対応している。					

ご意見・ご要望・苦情解決の仕組みについて

当園が提供する福祉サービスについて、ご意見・ご要望又苦情に対し、適切に対応する体制を整え、苦情解決に努めております。

〈保育内容に関する相談・苦情受付窓口〉

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-30-4

TEL 03-5615-5666

FAX 03-3801-0336

受付担当者 : 日暮里きらきら保育園 主任

問題解決責任者: 日暮里きらきら保育園 園長

〈運営に関する相談・苦情受付窓口〉

スタートケアサービス株式会社 本部

〒135-0042 東京都江東区木場5-8-40 東京パークサイドビル12階

TEL 03-6880-3270

FAX 03-6880-3261

第三者委員

他行政区保育園 園長1名

〈公表〉

令和7年度 第三者委員会が招集される相談・苦情はございませんでした。

令和6年度 第三者委員会が招集される相談・苦情はございませんでした。

令和5年度 第三者委員会が招集される相談・苦情はございませんでした。

令和4年度 第三者委員会が招集される相談・苦情はございませんでした。

令和3年度 第三者委員会が招集される相談・苦情はございませんでした。

〈第三者評価結果について〉

東京福祉ナビゲーションにて結果を公開しております。

詳細はこちら> [評価結果 \(fukunavi.or.jp\)](https://fukunavi.or.jp)



日暮里きらきら保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告 2025 年度

5. 探求活動の実践

〈活動内容〉

2025. 8. 29【光と色について観察してみよう】素材・道具：カラーセロハン、トレース台

- ・赤、青、黄色の3色のカラーセロハンを用意し、トレース台を使って光を当てながら色の変化を観察した。今回の目的は《自分の好きな色を見つけよう》とし、活動の最後に各自発見した好きな色を発表することを伝えた。
- ・子どもたちは2つのグループに分かれて各自好きな色のカラーセロハンを選び、重ねて光を当てていった。
- ・初回だったこともあり、時間は15分程を予定していたが実際は30分程度となった。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

- ・活動開始直後は初めて見るトレース台に強い関心を示し、色よりも道具への興味が強く、カラーセロハン単色で光に当てて楽しんでいましたが、徐々に2色、3色へと使用する色が増えていった。各自好きな色のカラーセロハンを手に取り、重ねて光に当てると様々な発見があったようで、「こうすると茶色!」「これとこれで〇〇色になるんじゃない?」「白がないなー」「白って作れる?」「肌色作ってみようよ」「いいね!薄い色と黄色を混ぜると肌色になるんじゃない?」「場所によって色が違う!」などと気づいたことをそれぞれの言葉で表現していた。友だちが作った色に興味を示しつつも、自分だけの色を見つけようと自分なりの工夫を加えるなど互いにいい刺激を受けながら活動していた。
- ・活動の途中にトラブルでトレース台の電源が切れると、それまで色が鮮やかだったカラーセロハンが少し暗くなり、色が変わった。子どもたちがあれ?というような表情をしていたので職員が「スイッチが切れちゃったね。」と声をかけると、次からはあえて電源を切ったりつけたりして色の変化を楽しんでいた。



どんな色を作ろうかな～?

道具の使い方のおはな

作った色を発表します!

6. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・初回ということもあり、色の変化よりもトレース台への興味関心が強かった。
- ⇒最初からトレース台を出さない方がよかったかもしれない。自然光から初めてもよかった。
- ・カラーセロハンを重ねてもあまり色が作れなかった。
- ⇒いろいろな色が作れると思い3色にしたが作ることができなかった。他の色もあってよかった。
- ・子どもたちから「白がない」と言われ用意できなかった。
- ・自分の色を発表する時に、同じような内容になっていた。
- ・3色の中で色をたくさん作ろうとしていた。
- ・他児から刺激を受け、友だちと一緒に色を作ることを楽しんでいた。
- ・「先生、見て」という姿が多く、見つけたものを共有したいという思いも伝わってきた。とても楽しんで夢中になっていたのも、5歳児の子どもたちにはヒットしたように思う。

5. 探求活動の実践

〈活動内容〉

2025.12.12(金)【光と色について観察してみよう】

素材・道具：カラーセロハン、トレース台、玩具（透明LaQ・宝石・ひも通し・マグフォーマー）、透明コップ、ポリ袋、油性マジック、折り紙、画用紙

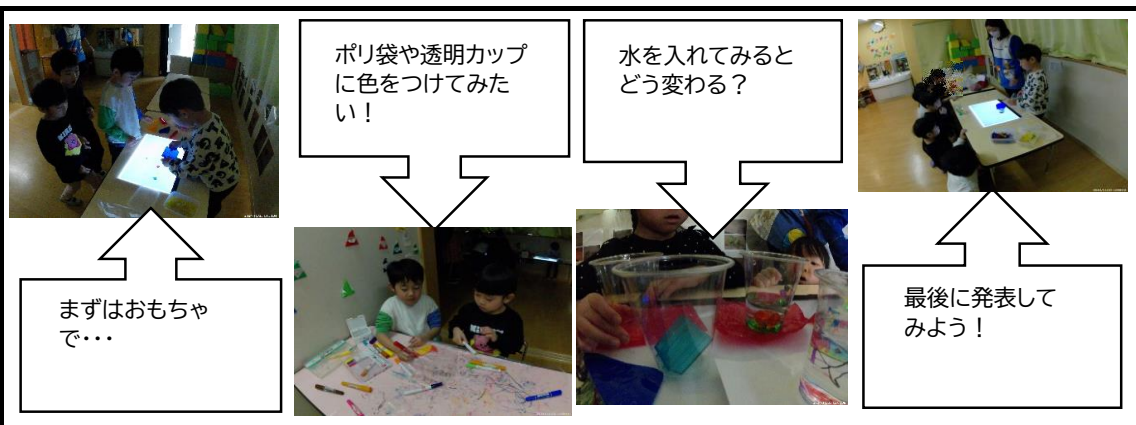
- ・前回に引き続き、目的は《自分の好きな色を見つけよう》とし、活動の最後に各自発見した好きな色を発表することを伝えた。今回は保育室にある玩具や道具、材料を使用し、トレース台を使って光を当てながら色の変化を観察。玩具などは子どもたちそれぞれが好きなものを選んだ。
- ・子どもたちが夢中になって取り組んでいたこともあり、時間は1時間程度となった。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

・前回の活動で使用したトレース台を見て数名の子どもたちは「色のやつやるの？」と準備段階から興味関心を示していた。保育者が「今回はお部屋にあるおもちゃなどを使って、自分の好きな色を見つけてみよう」と話すと、ほとんどの子どもたちが光の通るもの、通しやすい素材のものを選んで持ってきた。「こっちのLaQの方がいいな」と原色のLaQではなく透明のLaQを迷わず選んだ子どもに対し保育者が「どうして透明のものなの？」と声をかけると「うーん。こっちの方がいいから」と自分の考えを言葉で表現することが難しそうであった。他の子どもたちも次々に光の通しやすい宝石の玩具やひも通しの玩具を選び、トレース台の上に乗せていた。再度「みんな透明のおもちゃだね。どうして？」と保育者が声をかけてみると、一人の子どもが「だって透明じゃないと光が通らないから」と答えた。

・玩具から徐々に道具や素材を使用し始めた。「ポリ袋ください」と一人が言うと周囲の子どもたちも使用し始め、油性ペンで色を塗ったり絵を描き始めた。透明カップにも絵を描いたり色を塗りトレース台に乗せて変化を楽しんでいた。この発見が発展し、数名がコップに水を入れ始めると「水の色が水色になった！」「水色の水の中に黄色のLaQを入れたら緑になった！」とたくさんの色の発見が生まれた。光を当てる場所や角度によって見える色も違い、変化も楽しんでいた。

・最後に自分の見つけた好きな色を発表した。保育者が「自分の見つけた色に名前をつけられたらつけてみてね」と伝えるも、子どもたちからは赤、オレンジ、あおといった見たままの名前があがった。自分の発見を言葉で表現することが少し難しそうであり、自信が持てずに小さい声で発表していた。



6. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・前回の取り組みを覚えており説明後すぐに取り掛かることができていたが、数名はなかなか趣旨が理解できずに戸惑っていた。取り組む姿にも個人差が見られ、すぐにトレース台の前に来て繰り返し試す子どもたちもいれば、色塗りやお絵描きの作業にほとんどの時間を費やしてしまう子どもたちもいた。

・色を見つける活動をしながらも水が加わったことで関心が水に移ってしまい、目的が脱線してしまうこともあった。そういった時の子どもたちへの声かけが難しい。今後は子どもたちの様々な行動パターンを予測し、子どもたちの気づきや発見の邪魔にはならないようさり気ない声かけをしていきたい。そして、職員間で共通認識を持って関わっていききたい。

・色の概念、枠組みから外れて『自分の色』を言葉で表現することが難しそうであった。日常の会話の中から自由な発想で物事を捉えられるよう、子どもたちと関わっていききたい。

5. 探求活動の実践

〈活動内容〉

2026. 3. 17 【自分の好きな色を見つけてハンカチを染めよう】

素材・道具：アクリル絵の具、ビーカー、試験管、試験管立て、タレビン、マドラー、スポイト、白衣

- ・前回までは、カラーセロハンや保育室にある玩具、素材などを使用して《自分の好きな色を見つけよう》という目的のもと活動に取り組んできた。また《自分の色》として見つけた色に自由に名前をつけてみようとして取り組んだが、実際には色の概念や枠組みから外れて《自分の色》を言葉で表現することは難しい様子であったため、日々の保育の中で色を自由な発想で捉えられるよう、子どもたちとやりとりをしていった。
- ・4人1グループで2回に分けて取り組んだ。
- ・赤、青、黄色、白の4色のアクリル絵の具をそれぞれビーカーに入れ、各色を試験管の中で混ぜ、色を作っていた。
- ・活動時間は、子どもたちが夢中で色を作っていたため、各グループ30～40分程となった。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

- ・活動の説明として【今まではもので色を作ってきたけれど、今回は絵の具を使って色を作ること】【試験管やスポイトを使うこと】【白衣を着てやること】などを保育者が伝えると、子どもたちは「博士みたい!」「実験だ!」と目を輝かせていた。活動後に【作った色の中で一番好きな色の名前を発表してもらうこと】も伝え、活動を開始した。
- ・1グループの4人の子どもたちは試験管4本を使用。試験管4本を使用すると多くの時間がかかってしまい、色づくりに苦戦している子どもの姿も見られたため、2グループが取り組む際は試験管を2本にした。各色のビーカーからスポイトでアクリル絵の具を試験管の中に移し入れ、色を混ぜながら色の変化を楽しんだ。
- ・最初はどの子どもたちも道具を使うことへの興味や好奇心、楽しさが全面に出ており、色づくりへの関心は薄かったが、道具の使い方に慣れると徐々に色の変化に気づき発言が増え始めた。「黒を作りたいんだけど・・・」「黒だったら、全部の色混ぜてみたらいいんじゃない?」「黄色が青より強い」「砂よりちょっと明るい色を作った」など気づいたことを自分なりの言葉で伝えていた。作業にとっても集中し発言は少なかったが、全員が夢中になって参加していた。
- ・作った色を発表する場面では、使った色、何色を何回入れたか、こだわった色の配合などをそれぞれ発表していった。完成した色は「みかん色」「ゲームに出てくるドアに色」「すみれ色」などユニークな名前の色だった。



白衣を着て、気分は研究員。

試験管に好きな色を入れて、マドラーで混ぜて色を作ります。

スポイトで数滴ずつ入れ、微調整する姿も見られました。

完成した色を取っておきたい子は、各自タレビンに入れ保管しました。

6. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・初めて使用する道具が多く最初は道具への関心が強くなってしまったため、目的やイメージした色を作るというよりも、ただ色を混ぜるという作業になってしまった。また、試験管の本数が多く活動自体に飽きてしまう子どもの姿も見られたため、開始前に十分に配慮すべきであった。
→実際に色を作るという作業は今回が初めてだったため試験管の数は少なくし、じっくり作り込める環境設定が必要であった。
- ・白衣を着用しての活動は、子どもたちの気分も高まりよかった。
- ・作った色を取り置きしておきたい子どもたちは、タレビンを活用することで日常生活の中でも自分の作った色に触れ、遊びの継続が見られた。